

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2872700360 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 正峰会 | | |
| 事業所名 | グループホーム さくらんぼ | | |
| 所在地 | 兵庫県西脇市黒田庄町黒田1601-30 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年1月19日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年3月24日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index_php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2872700360-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター | | |
| 所在地 | 姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年2月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度初めての試みとして外国人職員の受け入れもあり、言葉の理解を解決するために丁寧な指導を職員全員が心掛け、一日も早くお客様のケアができるようにチーム一丸となった年でもありました。軽度化から今年度はスタートし、本来のグループホームらしい取り組みを考えながら、いろいろな発見もあり、お客様の残存能力を活かした取り組みを次々と取り入れ取り組めた年でもありました。新型コロナウイルスの流行に伴い面会制限、ご家族様との関わり、様々な地域活動も中止される事となりました。新しい形での地域への参画が求められましたが、課題は解決できていません。お客様と一緒に地域に出来ることを考えながらこれからも発展し続けられるグループホーム作りに取り組みたい。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西脇市を流れる加古川の堤防の傍らにあって、静かな住宅街にある事業所である。2つのユニットを母屋と新宅と呼ばれており、利用者をお客さんと呼んで職員も皆家族のように暮らしておられる。熱意のある管理者とリーダーは、利用者の能力を見守りながら、できることをしてもらい、できないことを工夫し支援されている。敷地内にある畑ではサツマイモやきゅうり、トマトなどの野菜の栽培もされている。広い庭には、さくらの木や藤棚があり、窓からも季節を感じることができる。また、ベンチやテーブルも置かれていて、パーベキューやお茶の時間も楽しんでいる。理念にあるように、利用者同士と職員とのふれあいを大切に、利用者にとってやすらぎ場であるように日々の暮らしを全職員で支えておられる、環境にも人にも恵まれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 昨年に本来のグループホームに近づけようと軽度家化に向け取り組み現在は平均介護度2.7になっています。理念のように残存能力を活かして出来ることは自分でして頂く声掛け、支援を行っています。職員同士の意見交換は常に行っています。その方にとって1番良い方法を考えながら出来ることを探り、穏やかに過ごしていただけるように対応しています。 | 法人理念を基に、グループホーム独自の理念を作られている。地域密着型サービスの意義をふまえた理念について見直しされているところである。家庭的なサービスに特化され、「職員も利用者や家族」との思いで利用者ひとり一人に寄り添い、共に生活支援に努められている。見直された理念を職員間で周知する取り組みが望まれる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナの関係で全く地域とのかかわりが今は出来ていません。以前は、夏祭り、避難訓練にも役員さんが数名お越しいただきお手伝いをして下さっていました。今まで出来ていたことが何も出来ていません。散髪だけは向かいの美容院にお世話になっており唯一地域の方とのかかわりの持てる場所となっています。施設周辺の道路のゴミ拾いを歩行安定した方と実施しました。 | 利用者と一緒に、地域の周辺道路のごみ拾いを行い、また、雑巾を縫って、出来上がったものを学校へ寄付する準備をされており、地域へ貢献する取り組みがなされている。今は、コロナ禍のため、秋祭りや地域行事は取り行われず、理美容など、近隣の美容室へ出かけるのみの交流となっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 待つ介護を意識し残存能力を活かしていただけるように声掛けをしています。歩行したい思いがあれば意思を尊重し、付き添い歩行をして頂く。自宅で過ごしているような生活をホームでもおなじように感じ過ごしていただいています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナウイルス感染症の拡大により開催はしておりません。2ヶ月に1回の報告のみとさせていただきます。上期、下期には写真付きで行事等の報告も含めさせていただきます。 | 今年度は運営推進会議の開催はならず、書面会議として行われている。参加者全員と家族全員に報告書として作成し、送付されている。意見を返していただけるように取り組まれている。書面会議録として書式の見直しなどが望まれる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 推進委員会には毎回参加をして下さりお話をする機会もありましたが、コロナで委員会の開催も中止している状況で施設での行事や報告を書面で送付している現状です。 | 長寿福祉課の担当の方が運営推進会議に参加されていたが今は開催されず、話し合う機会が途切れている。今はBCP計画作成のために、関係部署に問い合わせ、教えて頂くなど、協力関係の構築に努められている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の内部研修の開催を実施。職員の中でも身体拘束撤廃に意識は強く、してはいけない事との認識は定着している。施設の中では自由にその人を尊重し生活していただいています。玄関先に出られる方も居られますが、納得いくまで歩行される様子うかがいながら付き添っています。スピーチロックが時々気になる時もあります。 | 身体拘束をしないケアについて、年2回職員研修が行われている。玄関の施錠もなく、身体拘束についてのマニュアルを整備され、身体拘束をしないケアに努められている。身体拘束禁止についての方針の明文化や身体拘束委員会の開催が望まれる。 | 身体拘束をしないケアを、事業所の指針として明確に打ち出し、毎月行われている「リスクマネージメント委員会」で、身体拘束をしないケアの確認を行い、事例について話し合う取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|---|---|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (6) | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止研修の内部研修の実施。 小さな内出血も職員間で意見交換を行い原因を探る等している。原因不明でもヒヤリハットに上げることで意識が強くなった。言葉遣いにも利用者様を傷つける事がないように意識はしている。職員同士お互いが行動を見ている様子はあり虐待防止に対する意識も高く持っている。 | 高齢者虐待防止についてはマニュアルを整備し、職員研修が行われている。職員のストレスチェックを年1回行い、ストレスをためないよう声かけするなど配慮されている。個人面談は随時に行い、日頃からいつでも相談を受ける関係ができています。不適切なケアのセルフチェックリストなどの活用も検討してほしい。 | |
| 8 | (7) | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人制度研修も実施。 現在は対象者は居られないが、全員が少しでも知識として学ばせたい。 | 成年後見制度を利用されている利用者は居られないが、職員に対して成年後見制度について研修が行われている。権利擁護に関する制度に関してのパンフレットは玄関で設置し、いつでも見られるようにされている。 | |
| 9 | (8) | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 申し込み時にお越しいただいたご家族様には困られていることを尋ねている。問い合わせ時にも詳しくお尋ねをしている。契約時は熟読しながら補足を行いご理解いただいているか、尋ねている。改定があった際は、郵送し書名を頂き返送を依頼している。 | サービス利用希望者に対しては、利用者や家族と接触を避けて、見学も可能とされ、サービス内容や金額について説明されている。サービス開始時には、契約書や重要事項説明書を読みながら説明されている。重度化については質問が多く、口頭で説明されている。緊急時や看取りについての指針が望まれる。 | |
| 10 | (9) | | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 現在はコロナ感染防止対策の為、面会はリモート、窓越しで実施している。中々出会うことが少なくなったが、必要な物をご持参いただいた時などは感染対策を実施し、少し様子をお伝えしたり関係性の構築を図っている。また顧客満足度調査を実施している。集計結果はご家族、地域に報告している。ほぼ満足頂いているが、より満足いただけるよう対応が出来るように取り組みをしたいと思う。 | 顧客満足度調査を年に1回行い、家族の意見を表せる機会が設けられ、多くの意見が寄せられている。それを職員間で検討し、集計結果は家族や運営推進委員会に出席された地域役員に報告されている。日頃のサービス向上に向けて取り組まれている。 | |
| 11 | (10) | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングも開催しているが、職員と管理者とのコミュニケーションは良く取れているほうだと思います。何事も職員から管理者へ口頭での相談や改善など良く声を掛けてくれます。意見に対しては可能な限り尊重しチーム内で話し合いをしています。 | 職員からの意見は、月に1回、それぞれのユニットでミーティング開催時に聞く機会を設けている。その中で、職員の休憩時間を確保する取り組みなどが改善された事例がうかがえた。日頃から相談したり意見を言いやすい職場環境ができています。 | |
| 12 | | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 認知症の進行が著しい状況ですが、職員みんな協力しながら勤務してきます。個々に得手不得手がありますが、周りをみながら行動が取れているように思います。お客様にどのように対応するのが一番良いのか、たくさんの意見が出ることはよいことだと思います。お客様の出来ることが増えることはやりがいに繋がっていると思います。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年齢や経験に幅がありますが、個人の持たれている今の可能性を落とすことなく勤務してもらえたらと思っています。伸びる職員はどんどん伸びていっています。個人差はありますが、努力は認め、自分なりに一生懸命ケアに取り組むと自然と知識も付いてくる。職員自ら目標を持つとスキルアップ出来ると思います。前向きな言葉掛けをするようにしています。 怒ることは極力せず、褒めて伸ばすことをしたいと思っています。怒りたいところも言葉を考え穏やかに話すように意識しています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 今は全く交流がもてていない状況ですが、管理者は会議に参加をしている為、情報交換は出来ている。今はリモートの設備を整えた為、排泄や、公文学習のリモート会議や勉強会に参加をしています。今年度は研修もリモート研修を実施しています。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人に尋ね答えられる方は良いが、出来ない方も多い。認知症の対応の基本であることの否定しないで話を聞くことは大事なことで横にいるだけで穏やかになれることもあり、安心していただけている。可能な限り施設内では自由に生活をしていただきたい。また、職員は家族のような存在でありたいと思っています。どんなことでも話して頂けることがありがたいと思っています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様は自宅で困られていることを話されるので同調しながら話を聞いている。また他のお客様の所も同じような悩みをお持ちですよと伝え気持ちを楽に持っていただける様に、またいつでも連絡下さいと声掛けさせていただいている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時「まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | どのご家族様も穏やかに生活して欲しいと思われている。ご本人は中々返答が難しい方もおられるが、家にいても1人だからと言われる方も増えている。入居され後家族様はほっとされている方が多いように見受けられる。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活RHとして出来ることの支援の継続。また実施が難しくなった場合は、簡単なことでも出来ることは実施していただき役割を持っていたできるように普段から様子、行動を探っている。軽度化になり特に母屋はいろいろな過渡ができています。毎月作品作りの手伝いをお願いし完成させたりしている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 9人と言う少人数で生活されているため誰とも仲良くしていただきたいと思うが、性格も違う為、中には合わない方も居られる。テーブルの配置換えはよく行い、話が出来る方と一緒にするとか、性格の合わない方とは一緒にしないとか考えて決めている。そうすることでお互いを気にしたり心配したり、時には不穏を招くこともあるが、良い刺激になっていることもある。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現在は全く出来ていないが、以前は買い物と一緒に رفتったりした。近場で桜を見たり地域のお寺に紅葉を見に行ったり人混みを避け実施している。 | 面会は窓越しで行われ、馴染みの場所への外出などはできていない。電話を持っておられる方は家族や知り合いの方とお話をされている。台風時に近隣の方が迎えに来られ、家が心配だと言われる利用者の家の修復や墓参りを、一緒にされて戻ってこられた事例をうかがった。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | どうしても合わないと判断した場合は、席を離しているが、レクのときは皆さん一緒に楽しんでいただく機会も設けている。認知症もあり、時と場合で様子も変わっている為、誰とでも仲良く過ごして頂きたいと思っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居されると中々連絡する機会も無いが、しばらくは新しい施設の対応の相談に来られたりこともあった。お出会いする事もあるのでその際は、声掛けをさせて頂き、近況をうかがったりしている。また最近では義母様は退居されたが義父様の申込みに来られたお嫁様もおられた。 | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 話の中で今したいことがありますか等、直接尋ねる方もおられる。意思疎通が困難な方には普段の様子から推測し検討していることが多い。 | 日頃の会話の中で意向の把握に努められている。入浴時に職員が聞き取ったり、利用者同士の話の中でしたいことなどを話された事を聞き流さずに行っている。意向の把握が難しい利用者については、普段の様子や表情などから汲み取っている。今後、利用者の何気ない言葉や行動についての記録もされ、介護計画への移行などを検討してほしい。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | お客様の生まれた所、幼少の頃の様子、ご家族のことなど話をすることはよくある。話の中でよく取り組まれていたことも話をする。昔の苦労話をよくされる。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 高齢である方には臥床する時間を設ける。自立されている方は自由に時間を使い生活されている。活発に行動される方には歩行練習や車椅子歩行を意思を確認しながら促している。表情でも体調が大体わかるので声掛けし状態の把握をしている。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 普段からお客様の状況について職員間の意見交換は多い。またご家族に意向確認をお聞きし計画に入れている。 残存能力を生かした取り組みで出来ることを探りながらプランに反映させている。軽度化してからは色々出来るが増えた。 | 半年に1回、毎月行うモニタリングを基に介護計画の見直しが行われている。サービス内容は、毎日チェックし確認している。再アセスメントはシステムの中でケアチェック表で、介護計画の見直しごとに行われている。担当者会議には関係職員と利用者交えて行われている。利用者と一緒に計画の中で目標を立てていき、現状に即した介護計画が望まれる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | プランの内容が実践できたときは記録に残している。 職員間でも情報交換をし介護計画の作成の参考にしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々に違うので固定概念にとらわれずその方らしく生活していただけるように、その方にあった生活をしていただけるようにしている。 大切なのはその方らしくありのままに生活していただけることだと思います。自立度の高い方は本当に自由に時分の時間を過ごされています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 中々、今は地域に出ることはありませんが、近所の美容院にカットに行かせて頂いています。顔なじみにして下さっており、お客様も安心しておられます。現在唯一の地域とのかかわりのある所です。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 近くに病院があるので必然的にご家族様の希望も同じのかかりつけ医になりますが歯科に関しては、以前からご利用されていた所に行かれている方も居られましたが、遠方でもあり、長時間待つことが困難になってきたため往診の出来る医院に変更しました。職員付き添いで受診の場合は行く前にご家族様に報告、受診結果も連絡しお伝えしています。 最近では歯科往診で治療される方が増えています。 | 月に2回訪問診療が行われている。歯科往診は月に1回来られ、訪問看護は週に1回健康相談が行われている。眼科などは家族の協力をえて、受診されている事例がうかがえた。かかりつけ医や協力医療機関との連携が取れており、適切な医療が受けられる体制ができている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師を頼りにしている部分もあり、気になることがあれば連絡し指示を仰いでいます。日々の生活の中での様子や気になることも毎週伝えることが出来ています。訪問看護師の方もカルテを見てくださっているようで安心しています。看護師がいない中で医療職に相談が出来るのはまずは訪問看護です。コロナ感染のときも迅速に対応して下さり大変助けていただきました。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 毎回、医療連携室から情報を頂いているが、施設も病院のカルテを確認できる為、随時閲覧し確認している。 入院状況や治療状況の話をしてくださる為、施設としても希望をお伝えしている。4月以降入院はおられないが、もし入院された場合でも連携は取れます。 | 今年度は、入院された方は居られない。利用者の入院時には同法人の協力病院に日頃の情報提供をしている。法人内なので情報共有ができており、退院に向けたカンファレンスは参加していないが情報はいただいている。日常的に地域医療連携室との情報交換が行われているため、医療連携が十分に図られている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 食事量の減少があった場合もご家族には報告しその後も経過報告を行っている。ご家族の意向も確認し、施設で出来る対応の説明は行っている。現在ホームでの看取りはしない方向に変わってきており、重度化に関しても、特養、有料に移行しています。3月頃より本来のグループホームに近づけていく方向で、重度者の長期入院、医療処置が必要な方に関してはご家族様の理解を得た上で医療職が常駐している所に変わられ軽度者が入居されています。 | サービス開始時に、重度化や終末期について十分説明し、看取りをしない方向を了解していただいている。重度化になられた場合には本人・家族の希望を聞きながら次の事業所などにつないでいく支援に努められている。更に重度化になられた場合には、協力医や訪問看護師などの意見をうかがいながら、家族に伝えられている。看取りの職員研修は行っている。 | サービス開始時に、看取りをしない方向や重度化になった場合の支援について口頭説明はされているが、指針として文書化するなど明確にする取り組みに期待する。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時や事故のときはマニュアルを参考にしている。 定期的な訓練は出来ていない為、他施設で実施があるときに参加したいと思う。実際に急変の場を経験した職員にはヒヤリングを行い振り返り反省点改善点の指導をしている。研修で学んでも実際の場面で動けるかが重要である。動揺することなく、落ち着いて行動するように伝えている。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は年に2回実施を計画している。 今年度も1回目の水難避難訓練を実施した。避難場所まで実際に時間を測定した。 3月に火災避難訓練を予定している。 通報の仕方など再認識できる場となっている。 以前は地域の方にも避難誘導のお手伝いをして頂いていたが、コロナ禍で施設職員のみで実施している。 | 年に火災避難訓練を1回、水害想定避難訓練を1回実施されている。避難確保計画は、ほぼ仕上がっておりBCP(事業継続)計画は策定中である。近くの中学校まで避難するようになっている。地域の方との協力による訓練については新型コロナウイルス感染症の影響で自粛されている。地震などの自然災害についての避難訓練などは行われていない。備蓄品は水、パン、持ち出し品など1日分程度保管されている。 | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その方を十分に理解したうえで気持ちの尊重や対応をしている。 プライドの高い方や性格も理解したうえでプライバシーを損なうような声掛けはしない。 | 利用者一人ひとりの尊重やプライバシーについては、今月、職員研修がされる予定である。居室に入室する時には、声をかけ、トイレ誘導時や入浴介助などの時にはプライバシーに配慮した支援に努められている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 認知症状の強い方にもゆっくり問いかけ声掛けを心がけている。 自己決定の困難な方にもいくつか質問を問いかけながら何を伝えたいのか、したいのか、考えている。無理強いすることなく拒否があれば時間を開けて対応するようになっている。 | | |

| 自己 番号 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------|--|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎日の体操も声掛けをするが気分や体調により参加されない方も居られるが無理に誘わず本人に任せている。出来る所だけでも参加をして頂いている。 学習も本人の意向を確認し、実施、取り組まれているが、段々難しくなられている方もおられるがランクを下げながらご家族の希望もあり対応している。 | | |
| 39 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で準備できる方にはお願いしている。 化粧水をつけられたり自宅に居られたときとかわからない。近隣の美容室、散髪屋さんに2ヶ月に1回の目安で行っている。自分で長さは伝えておられる方も居られる。整髪、髭剃りも出来る方は自分でしていただいているが出来ない方はお手伝いをしています。化粧品については自宅で使用されていたものを使用されています。 | | |
| 40 (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | おやつ作りや、食器拭きをお願いをして一緒に取り組んでいる。可能な範囲でお願いしている。食器拭き、お盆拭きは毎食数名にお願いし見守りや一緒にして頂いている。(手洗い消毒後) ときには洗い物をしてくださっています。 | 食事は、毎日3食職員が利用者にも手伝ってもらい調理されている。テーブルにそれぞれ座って食事されるが、職員も同じ食事を摂られている。利用者ができるお盆拭きなどはできるだけしてもらっている。毎週土曜日は昼食づくりを利用者と一緒に行っておられる。その献立は、利用者の希望も聞きながら食事を楽しくできるよう工夫されている。 | |
| 41 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 嚥下状態の悪い方には個別で刻み食等に変更しています。少食の方には食べて頂ける量で提供しています。水分量の少ない方には、温かい物は温め直してお好みの温度で召しあがって頂ける様にしています。 どのようにしたら食事量がアップするのか試行錯誤をしながら職員は意見交換しています。 | | |
| 42 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食前には口腔体操、食後には口腔ケアを行っています。声掛けのみで口腔ケアに行かれる方もおられますが、ご自分で出来ない方には職員がお手伝いさせて頂いています。週一回は、歯科衛生士の訪問があり口腔内のチェックを行って頂き指導を頂いています。治療が必要であれば歯科医と連携を取ってくださり往診で治療ができています。口腔ケアが毎食後になってから口臭の改善、誤嚥性肺炎が減少しています。歯磨きが習慣になりご家族様も喜ばれています。 | | |
| 43 (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 基本可能な方は全員誘導の元、トイレでの排泄がベストだと考えています。尿量に応じたパットの選択をしています。本人の様子を見ながら、声掛けを行い、トイレ誘導しています。テナマイスターの取得にも力を入れています。正職員10名中8名がテナマイスターの資格を取り、正しいパットの当て方を実践しています。(2名は新入職のベトナム人職員です。) | ユニットごとに、健康チェック表で利用者の排泄に関する記録がなされている。個々の利用者のリズムや状況により職員が連携して声かけをして、できるだけトイレ誘導をすることで自立に向けた支援を行っている。パットの選び方、当て方など細かいところまで配慮され、個々の利用者に応じた排泄介助ができるよう実践されている。 | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | イレウスなど既往にも注意し、排便の間隔を毎日確認し、便の状態、水分摂取量等様子を見ながら乳製品(ヨーグルト、ジョア、牛乳)を摂取して頂いています。便秘が他の症状になって現れる方には定期的に排便コントロールを行い対応しています。 | | |
| 45 | (21) | | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 体調が悪い日やその日の気分で拒否された場合は、入浴日や時間を調整し、入浴して頂いています。立位保持が困難な方は浴槽に浸かれないためシャワー浴で対応しています。浴槽に浸かられている際も目を離さず側に付き添い、話をさせて頂いています。急変があっても対応出来るように職員が多い日中に入浴して頂いています。軽度化で入浴も自立の方が増え鍵をかけられる方もおられ、長い方は1時間近く入浴されている為頻りに声をかけています。 | 利用者が週に2回は入浴できるよう支援されている。利用者の意向も配慮しながら声かけされて、季節によっては、職員がゆずを持参され、ゆず湯を楽しまれている。また、菖蒲の時期には、利用者と一緒によもぎを摘みに行っており、菖蒲と一緒に季節の湯を楽しまれている。 | |
| 46 | | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床時間、就寝時間は、体調面や日中や夜間の様子等を見て判断しています。居室の室温や湿度は、温度湿度計を見て確認しています。寝具は、自宅で使われていた馴染みある物を持ってきて頂いています。日中にしんどそうにされている方は、見守りの出来るリビングの畳コーナーで横になって休んで頂いています。部屋が落ち着かれる方は居室に戻って休まれています。居室には都度職員が様子を伺うようにしています。 | | |
| 47 | | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の既往歴や現病歴を把握するように努めています。誤薬事故防止するために薬セット時と服薬前に違う職員がチェックするようにしています。服薬時も袋の印字を読み上げています。服薬の方法も統一し、スプーンも使って服薬していただいています。症状に変化があった場合は、訪問診療医や訪問看護師に相談するようにしています。 | | |
| 48 | | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自宅で楽しまれていた事をご本人様や家族様から伺い、編み物、写経、カラオケ(感染対策実施しながら)などしています。役割として、食器拭き、洗濯物量み等もして頂いています。天気の良い日には気分転換を兼ねて玄関前のベンチでティータイムをされています。畑作りや、鉢植えの花がお好きな方は苗を植えてくださったり取り組んでくださいます。野菜の収穫もたくさんしてくださいました。 | | |
| 49 | (22) | | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | コロナウイルスのため、以前より外出の機会が大幅に軽減されましたが、近くの桜や紅葉を見に出掛けました。また個人的な希望で散歩に行かれる方には付き添い、堤防に散歩にかけ破竹を取ったりされました。今はコロナで出かけられないと言われる方もおられます。ドライブでもおおおおおおいので機会を作ろうと話しています。 | 外へ出かけた利用者がいる場合には、一緒に付き添うようにされており、玄関を出るだけの時もあれば、川沿いの道を歩かれる場合もある。一部の利用者だけが外出の機会を持つことがないように職員が配慮されている。遠方への外出はされていないが、事業所の庭でのお茶の時間を設けたり、バーベキューを企画されるなど、外気浴をかねての、外へ出る機会を多くつくるよう、工夫されている。 | |

| 自己 者 第 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------|--|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金を持たれている方は1名おられ、通帳も持たれており首から袋を下げ持ち歩かれています。いくら持たれているかは本人の意志もあり聞くことはしていません。現在は買い物に行くこともなくなりましたが、必要なものは立て替えて購入しています。 コロナがもう少し落ち着けば買い物にも行きたいと思います。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族様と電話されたい場合は、家族様に職員よりお伝えさせて頂き電話して頂いています。iPadを導入し、家族様とテレビ電話で話をさせています。お手紙は2ヶ月に1回のお便りを送付させて頂いています。 面会の基本は窓越し面会、リモート面会ですが最近では検温、体調確認後、玄関で距離を取り、パーテーションをし、換気をしながら面会をしていただいています。 | | |
| 52 (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有スペースのリビングでは、食堂としての機能も兼ねています。ソファや畳コーナーもあるので、家庭的な雰囲気を感じて頂ける様にしています。どの部屋にも温湿度計を設置し調整しています。 廊下やリビングには毎月代わりの貼り絵など作品が展示され季節を感じていただけるようにしています。 | 広い食堂兼リビングでは、畳で掘りごたつのコーナーもあり、利用者は洗濯物を畳んだり、腰掛けたりされている。広く外へ面した掃き出し窓があり、明るい共用空間となっている。居間には、食器棚や棚が置かれており、生活感のある落ち着いた場所で、利用者にとっても居心地が良い。職員が利用者と一緒に作成した壁面飾りや写真などで、季節感もある。 | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースにはソファがありますが、皆様は畳に座られ話をされることが多いように思います。またお席も、気の合う方同士で座っていただいていますので、よく話もされています。 今は仕切板を設置しておりますが、特に問題なく話をされています。 | | |
| 54 (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族様と相談し、自宅で使い慣れた馴染みの物を持って頂くことで、安心して頂ける環境作りをしています。 中には仏壇やお位牌を持参されている方も居られます。 ご家族の写真を飾られたり、自宅にいるような空間作りをしています。 | 居室は、利用者と家族にお願いして馴染みの使い慣れた家具や生活用品を持ち込まれているとうかがった。机や椅子、衣装ケース、車いすなどが置かれている。布団や枕も個人で持参してもらって、利用者が居心地の良い空間になるように工夫されている。 | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物は全面バリアフリーになっています。中庭から差し込む光で昼間なのか夜なのかを見て頂くことが出来る様になっています。各居室の前にはご利用者様の表札があり、一目で自分の部屋だということがわかるようになっています。それでもわかりにくい場合は飾りをつけたり遠目からでもわかるようにしています。 | | |